

授業者		記録者	
助言者		司会	
<p>1 授業者自評</p> <p>【児童の実態】</p> <ul style="list-style-type: none">・算数への苦手意識が高い傾向。クロームブックを使うのが好きな児童は多い。・単分量当たり学習でどのようにしたら児童が楽しく考えられるかを意識して授業づくりをした。・算数でクロームブックを活用することが難しい。御指導いただきたい。・児童はいつもと違う環境で緊張があったが、頑張っって最後まで考えようとしていた。 <p>【本時について】</p> <ul style="list-style-type: none">・本来1時間扱いのところを2時間で行った。・手立て1：文章題の「ウサギ小屋」に児童は馴染みがないと思い、「畳の人数と枚数」に変更。 手立て2：ペア・トリオ。課題ができた児童が積極的に教える姿が見られた。・児童の考え ロイロノートで数直線を使っていた。公倍数の考えがあまり出なかった <p>2 質疑応答</p> <p>①</p> <p>質問</p> <ul style="list-style-type: none">・今回使用した数字の意図は →児童の実態に応じ、一人当たりの畳の枚数の方がイメージしやすいと思ったため。また、割る数 が大きい場面での立式が苦手な児童が多いため。・前時のBの部屋についてはどのように指導したか →平均の学習をふまえ、色分けをして視覚的に指導。教師がヒントを与えながら。 <p>意見</p> <ul style="list-style-type: none">・問いを持ちやすい場面だった。この単元では比例を前提として考える。片方の単位をそろえて考 える。それが見方・考え方を働かせるということだと思ふ。教師の誘導も大切で、いずれ児童が自 ら考えていけると良い。・数直線が少し見づらかった。情報が少ない物でもよかったと思ふ。・多いのが混んでいるのが、少ないのが混んでいるのか困っている児童がいたので、全体で共有で きると良かった。 <p>②</p> <ul style="list-style-type: none">・児童がロイロノートの使い方に慣れていた。ロイロノートの良さは考えを比較して共有すること にあると思ふ。児童が話し合うためのツールにするために、全体共有したうえで児童が意見を聞い てみたい児童を選べることもできそう。・質問したいことを書き出させた後に話し合わせるという活用法もできそう。・児童があまり提出できなかった理由は、できていない児童は見られたくないという心理が働くか らではないか。			

4 指導・助言

- ・授業づくりが学校の根幹。この研究会の意義を感じる。
- ・時間を区切ったり，問題を変えたりと児童の実態に応じて指導されていた。
- ・生活に密着させ，日常の中で使える算数を目指していた。
- ・クロームブックだけを使った授業。授業者のチャレンジ意識が伝わった。今後，書き留めたものをどのように残して蓄積していくか，教師の見取り上の課題など検討していく必要がある。
- ・クロームブックの可能性は普段から積極的に使うことで更に高められていく。
- ・自力解決が第一ではなく，どのように解決するのが大切。分からないことは周りの力を借りて良い。目的を共有し，学び合える環境を支える学級づくりが根幹となる。教師はコーディネーターとして児童の学びを創造し支えていくことが重要。
- ・やらなければ変わらない。やっていけば変わっていく。
- ・単元を通してどのような力を身につけさせたいかという教師の見通しが重要。